

2024 年度 学校法人大和学園
京都ホテル観光ブライダル専門学校
学校関係者評価委員会
議 事 録

1. 日 時 2024 年 9 月 11 日（水） 14 時 30 分～15 時 45 分

2. 場 所 京都ホテル観光ブライダル専門学校 502 教室+ZOOM 接続

3. 出席者 委員長 島崎 貢 様（京都ホテル観光ブライダル専門学校 同窓会副会長）
委 員 麻生 周治 様（ヒルトン 西日本地区統括人事部長）
委 員 田中 中秋 様（株式会社 JTB コミュニケーションデザイン 執行役員
エリアマネジメント部長 大阪・関西万博推進統括）
委 員 船橋 香菜 様（株式会社スタイルズ 営業統括本部ヒューマンリソース室室長）
委 員 辻本 剛久 様（京都西山高等学校 教頭）
委 員 今村 仁 様（京都両洋高等学校 学習進路指導統括部 第二学習センター長）
事務局 田中 幹人 （京都ホテル観光ブライダル専門学校 校長）
事務局 作岡 友樹 （京都ホテル観光ブライダル専門学校 校長代行）
事務局 奥山 勉 （京都ホテル観光ブライダル専門学校 副校長）
事務局 高岡 良明 （京都ホテル観光ブライダル専門学校 副校長）
事務局 楠井 秀和 （京都ホテル観光ブライダル専門学校 教務部 部長）
事務局 太田 敦久 （京都ホテル観光ブライダル専門学校 教務部）※書記

4. 議 事

（1）各学科の教育目標および本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画についての説明

（2）自己評価結果についての説明および評価

【1】教育理念・目標	／	【2】学校運営
【3】教育活動	／	【4】学修成果
【5】学生支援	／	【6】教育環境
【7】学生の受入れ募集	／	【8】財務
【9】法令等の遵守	／	【10】社会貢献・地域貢献
【11】国際交流		

（3）学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果の説明

5. 議事の経過及び結果

進行	内容
■開会あいさつ	<事務局：田中幹委員> ・臨席いただいた委員の方への謝辞を述べられ、本委員会の概要、目的について説明があった。
■委員長選出	<事務局：楠井委員> ・規程により互選にて委員長選出の旨を説明の後、島崎氏が選出され満場一致で承認された。
■議題 (1) 各学科の教育目標および本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画についての説明	<事務局：楠井委員より> 学校の教育目標および、本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画について、資料に基づいて説明がなされた。 <麻生様> 人手不足の中で、バランスの取れた教育目標を掲げられていて、グローバル化であったり、コミュニケーション能力であったり、そういったものを網羅されており、とても良い目標になっていると改めて思う。
(2) 自己評価結果についての説明および評価	<事務局：楠井委員より> (1) 教育理念・目標 (2) 学校運営 (3) 教育活動について内容、自己評価結果及び、課題、今後の改善方策の説明がなされた。 <辻本様> 人材確保について学校現場においては、小中高すべてにおいて教員不足が言われている。高校においても教員確保が難しく、早期からいい人材を確保することは、高校現場でも言われている。専門学校の場合、専門知識をお持ちの方、教壇に立って教えられるというところが、「知っている」「できる」と「教えることができる」は別問題である。そういう意味では視線を変えてみて、教える技能に長けた方に重点を充てるのもひとつではないかと感じた。 <楠井委員> 技術や経験等は申し分ないが、人に教える経験がないという方はいて、両面を揃えている方を探すのが課題となっている。ぜひこの方という方がいれば、各企業様からお声がけいただきたい。 <田中中様> 学校運営の中で事業計画を作られていると思うが、期中のなかで振り返って修正もしているのか。 <楠井委員> 半期ごとに確認をして、場合によっては変えることもある。目標数値は再検討もしている。 <今村様> インターンシップについて大学でも力を入れていると感じている。ホテ

ル観光ブライダル分野の大学の学部も増えていると思うが、そういう意味では大学と専門学校のインターンシップの差別化や、専門学校だからできるインターンシップはあるのか。

<楠井委員>

規模にもよるが大学ではまだ希望制のところが多いが、当校は全員必須になる。行く前には、企業様の研究や、何をして何を身に付けるかというところまでしっかりと事前指導を行う。インターンシップ後は、企業様から細かくフィードバックを受け、学校でも担任、就職担当で面談をして振り返り、かつ企業で学んできたことを授業の中で活かしていくというような、体系的なカリキュラムの中にインターンシップを絡めてやっていくのが、大学との違いではないかと認識している。

<麻生様>

私どものホテルにもたくさんの大学生の方がインターンシップでいらっしゃるが、専門学校生との違いというのは、大学生は就業体験という感じだが、専門学校生はすでに専攻が決まっているので、ホテルについて勉強したことを実践したいという感じで、企業側からすると専門学校生のほうが即戦力になるというところで大きな違いがある。

<事務局：楠井委員より>

（４）学修成果（５）学生支援（６）教育環境について内容、自己評価結果及び、課題、今後の改善方策の説明がなされた。

<今村様>

学生支援の１番の項目のところで、ブライダル学科は赤字で、各選考を通過するための面接対策を行っているところがあるが、他の学科はどうなのか。

<楠井委員>

各学科とも実施はしているが、ブライダル業界は競争が厳しいのが現状で、さらに内容を充実させている。就職に関連する専門科目の授業や、選考が近づけば就職担当もしくは担任や学科の教員が面接官となって模擬面接を行っている。

<今村様>

もう一点、ホテル学科の今後の改善方策のところで、学年・学科を超えた交流行事の実施というのがあるが、すごく良い取り組みだと思うので、他学科でも取り組んでもらって学園全体での取り組みにしてもらいたい。

<楠井委員>

１年生２年生の関係は、授業の中でも学年を超えて連携する取り組みや、授業外の行事などがあるが、高校での部活動のようなものが常時あるわけではないので、こういった取り組みをいろんな形でさらに深めていく必要があると思う。

<辻本様>

退学率の話で旅行学科の割合が高いとのことだが、それぞれの学科の理由を、コロナ禍の時との変化はあったのかも含めて説明いただきたい。

<楠井委員>

特にコロナ禍と大きく変わったというのはなく、理由は様々で、ここ数年前から増えているのは心身の問題、いわゆる心の病でというケース。他に、残念ながら学費の工面が難しいケースがある。1年の早い段階での退学は分野への興味がなくなっているということで、そのあたりは我々の指導や教育内容で変えていくことができるのではと思う。

<辻本様>

本校では、全日制と通信制があるので、通信制に移るという生徒も結構いる。コロナ禍で本来中学や高校で経験しなければならないことが、できなかったことで起こってくる問題だと思う。また、コースを以前は5つ作っていたが、中学3年生の時に将来のコース選択は難しく、高校進学後もコース選択、進路希望を柔軟に考えられるように、コースを2つに絞った。高校3年生の段階で将来の進路希望を決めて、それぞれのコースに進むと思うが、やはり自分が思い描いていた理想と違うということはあるかと思うので、途中で他学科にシフトチェンジできるようなシステムがあるのかもしれないけれど、退学を防ぐ方法になるのではないかと思った。

<麻生様>

保護者へのコミュニケーションと、卒業生からの声が大事だと思う。弊社では内定者を毎月バーチャルで集めたミーティングで先輩社員の声を聞かせたり、いろんな総支配人の声を聞かせたりして、そこで相談を聞いたりいろんなことをやっている。これは、保護者にも使えまして、保護者向けの説明会をバーチャルでやったりしている。ZOOMのような便利なツールがあるのでそれを駆使してバーチャルでの同窓会や説明会をやってみてもいいと思う。

<田中幹委員>

保護者への情報発信ということで、従来オープンキャンパスはこの学校でおこなっていたが、昨年度から取り組んでいる内容としては、外部のホテル様でオープンキャンパスをしている。同行されている保護者様にもホテルの要職者から今後の展望を前向きに紹介いただき好評を博したという成功体験も有しておりますので、引き続き産学連携でこの業界に興味を持っていただくきっかけとなるようなオープンキャンパスも着実に行っていけたらと思っておりますので引き続きご指導いただけたら幸いです。

<事務局：楠井委員より>

(7) 学生の受入れ募集 (8) 財務 (9) 法令等の遵守について内容、自己評価結果及び、課題、今後の改善方策の説明がなされた。

質疑応答は特になし。

<事務局：楠井委員より>

(10) 社会貢献・地域貢献 (11) 国際交流について内容、自己評価結果及び、課題、今後の改善方策の説明がなされた。

(3) 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果の説明

<田中中様>

ボランティアについて、自発的な取り組みというところがベースになるかと思うが、観光でいうと、ボランティアガイドなどボランティアの機運が高まっていると思うので、そのきっかけを作る、促す取り組みは積極的にあったほうがいいと思う。これは、学校だけでなく一般企業も同じだと思っているのでよろしくお願いいたします。

<事務局：楠井委員より>

【学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果】について説明がなされた。

<船橋様>

ブライダル分野に関わることになりますが、離職率、離脱を学校としては防ぐというところで、ぜひ企業としても役に立てることがあれば思っている。弊社も各エリアで学生さんが働いているプランナーとその仕事についてディスカッションする場を設けたり、ブライダル業界に対してのモチベーションを高めたりするようなお手伝いできればと思いますので今後ともよろしくお願いいたします。

<麻生様>

全体を通して、新しい取り組みのひとつに留学生の受け入れがあるかと思うが、在校生にも刺激になるかと思う。ただ、そのあとの就職に多くの学校は苦労すると聞いているが、学校の教育がしっかりできていれば企業はそれを信じて採用するので、留学生の採用につながるよう今の方針をぶれずに頑張ってください。

<田中中様>

今年度評価が厳しくされているのが印象で、4が3ではなく2になっているのは厳しく評価されていると思う。学校の特色である実践力のある方の育成に様々な取り組みされていると思うのでさらに磨きをかけていただければと思う。

<辻本様>

どこの学校も生徒の確保に苦労されているのは同じだと思う。その中で高校生の変化というところがあり、本校でも修学旅行について考え方を改めた。遠いところ、リゾートでの単なる観光だけではなく、将来の就職に向けた体験が入ってきていて、キャリア教育の一つに修学旅行が重く位置取りがされている。ホテル、旅行、ブライダルに対しての高校生の変化というのをこれから検討されるのも一つと思う。また、大学を卒業した学生がより絞った専門分野での学びということで、専門学校の活用が発展していくべきだと考えており、学生の募集という観点からも考えて一つの方向性として作っていただければと思う。

<今村様>

本校でも、キャリア探求という授業があり、専門学校の先生方にも講師としてお越しいただいて授業をしてもらっていたのだが、ホテル、観光分野よりもブライダル分野の方に興味を示す生徒が多いと感じる。ブライダルは留学生の受け入れは厳しいという話があったが、多様性の時代なので文化の差も大きく、外国の方を受け入れるのは難しいかもしれないが、海外の結婚フェアみたいな面白い企画が出てきて、業界全体が発

■閉会挨拶	展していけばいいと思っている。 <事務局：作岡委員> 業界として、学校業界もそうであるが、やはり人材不足が大きなテーマになる。我々専門学校ができることは、人材の確保、育成、定着に向けた取り組みを推進することかと思っている。様々な意見をいただいたが、高等学校との高専連携、業界との産学連携といったところを注視しており、この繋がりというところを引き続き強化していくことが非常に大切だと改めて感じた。今後も、このような機会に限らず様々なアドバイスをいただければと思うので、ご指導のほどよろしくお願いしたい。
--------------	---